



前期学校評価の結果をお知らせします

学校評価は、子どもたちがよりよい教育を享受できるよう、教育活動の成果を検証して学校経営の改善を目指すためのものです。学校経営の5つの重点の取組に対して、生徒・教職員・保護者アンケートの結果等を基に分析し後期の改善策についてまとめました。

※結果は、生徒と保護者のアンケートをもとにして示してあります。
 ※数字は全回答数に対して、選択肢A(よくあてはまる)、B(まあまああてはまる)、C(あまりあてはまらない)、D(あてはまらない)の回答数を%で示してあります。
 ※個々の判定は絶対評価とし、以下のabcdの4段階で判定します。
 a判定(達成)…A50%以上、b判定(ほぼ達成)…A40%以上50%未満、
 c判定(未達成)…A30%以上40%未満、d判定(未達成)…A30%未満

○学校経営の5つの重点1 授業力向上(確かな学力を身につけさせる)について

- a判定** ①チャイムスタートができています。
 ②授業の始めと終わりのあいさつをきちんとしている。
 ③宿題や提出物は、期限を守ってきちんと提出している。
- b判定** ④授業中、友だちや先生の話を目撃して聴いている。
 ⑧今している勉強は将来に役に立つと思う。
 ⑨授業では、課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいたと思う。
 ⑩話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりすることができる。
 ⑪授業はわかりやすい。
- c判定** ③授業では正しい姿勢を心がけている。
 ⑤授業中、友だちや先生の話をつなげながら聴いている。
 ⑫大人になったときの夢や仕事について考えることがある。
- d判定** ⑦学年の目標以上の時間をかけて、家庭学習に取り組んでいる。
 (1年60分、2年90分、3年120分)
 ⑬中学校卒業後の進路のことについて、家庭で話している。

生徒				保護者			
A	B	C	D	A	B	C	D
61%	37%	1%	0%				
63%	33%	4%	0%				
60%	32%	6%	2%				
49%	45%	5%	0%				
42%	45%	10%	3%				
43%	47%	10%	0%				
40%	48%	11%	1%				
45%	50%	5%	0%	39%	53%	6%	2%
34%	53%	11%	2%				
35%	45%	17%	4%				
34%	41%	21%	4%				
25%	41%	24%	10%				
34%	41%	21%	4%	20%	56%	22%	1%

美中生は授業の挨拶はしっかりと行っている。チャイムスタート、宿題や提出物についても昨年度後期より10%以上改善している。授業はわかりやすいや自分の考えを深めたり広げたりできるについても改善されている。家庭学習を目標時間以上達成できている生徒の割合が低い。卒業後の進路、夢や仕事についてなど将来につながる数値が昨年度と同程度だが、やや向上している。全体的に昨年度後期から減少しているものはなく、ほぼすべてで向上が見られる。

後期は授業中の姿勢、話を聞く態度がよくなれば学習効果につながるので引き続いて意識させます。個人懇談や進路について調べたり体験したりする機会を増やしたりして、進路学習の充実を図ります。取り組んでみたい、解決したいと思うような課題の設定を心掛け、対話的で深い学びにつなげます。授業研究を教科や学校全体で行い、わかりやすい授業づくりを行っていきます。

○学校経営の5つの重点2 生徒指導の充実(安心して学べる学校づくり)について

- a判定** ①学校へ行くのは楽しい。
 ②毎日、朝食を食べて登校している。
 ③朝読書の時間は静かに本を読んでいる。
 ④部活動や地域スポーツクラブの活動に積極的に参加している。
 ⑤掃除はまじめに行っている。
 ⑥社会のルールや学校の規則を守っている。(自転車や交通ルール)
 ⑨場に応じた言葉遣いをしている。
 ⑩時計をみて、時間を意識して行動している。
- c判定** ⑦自分の健康に関心を持ち、規則正しい生活を身につけている。
 ⑧自分のよいところを知っている。

生徒				保護者			
A	B	C	D	A	B	C	D
59%	34%	5%	2%	39%	53%	6%	2%
83%	12%	5%	1%				
73%	22%	3%	1%				
73%	21%	3%	3%	67%	24%	4%	4%
60%	36%	3%	1%				
68%	31%	1%	0%	41%	57%	2%	0%
53%	43%	3%	1%				
55%	40%	6%	0%				
39%	44%	15%	2%	20%	56%	20%	4%
36%	40%	19%	6%				

美中生は朝読書の時間に静かに取り組んだり、部活動や地域のスポーツクラブに取り組んだりすることに積極的である。掃除に関する数値は大きく向上したが、真面目に取り組めない生徒もいる。ルールや時間、言葉遣いに対する意識は高まっている。自分のよいところを知っているの割合は向上したがまだまだ低いのが課題である。

後期は学校生活や学校行事でよい部分を認める場面を増やしたり、目標を設定し、振り返る場を工夫することで、自己肯定感が高まるように努めます。

○学校経営の5つの重点3
心の教育の推進（いじめや不登校の未然防止）について

- a判定 ①相手思いや言葉を使い、周りに困っている人がいたら助けたいと思う。
②誰かがいじめや迷惑行為を受けている時、それを止めたいと思う。
④悩みや心配事があるとき相談できる人がいる。
⑤いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。

b判定 ③先生や友達は、生徒の良いところや努力しているところを認めてくれていると思う。

生徒				保護者			
A	B	C	D	A	B	C	D
59%	40%	1%	0%	33%	62%	5%	0%
58%	40%	2%	0%				
57%	29%	11%	3%				
76%	20%	2%	3%	58%	34%	5%	3%
44%	45%	10%	1%	26%	66%	6%	2%

美中生はいじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている生徒が多い。「悩みや相談事があるとき相談できる人がいる」や「いじめや迷惑行為を見たら、それを積極的に止めたいと思う」の項目に関しても数値が向上している。また、自分の良いところを認められているという意識も上がっている。

後期は安心して過ごせる学校づくりを継続していきます。学校生活全般を通じて認め合える場面を意識し自己肯定感が高まるように努めます。相談しやすい環境づくりにさらに努めていきます。

○学校経営の5つの重点4
生徒会活動の活性化（生徒の活動が見える学校）について

- a判定 ①学級における決められた係の仕事や委員会活動などにきちんと取り組んでいる。
②行事に積極的に参加し、学級のみんなや部活動のメンバーと協力し合っている。

b判定 ③学校や地域・家庭で相手も自分も笑顔になるあいさつをしている。

生徒				保護者			
A	B	C	D	A	B	C	D
61%	36%	2%	1%				
64%	32%	3%	1%				
47%	43%	9%	2%	34%	56%	8%	1%

美中生は、行事への意欲がとて高く、積極的に取り組む。また、学級や委員会の仕事も前向きに取り組む生徒が多い。自分からあいさつをしようとする生徒の意識はあまり変化していない。

後期は、コロナ禍以前の形に戻つつある様々な行事を成長の機会と捉え、学校・学年・学級でのつながりを深めていくことができよう努めます。あいさつも生徒会、部活動、縦割り班の様々な取り組みを継続していき、質を高めていく努力をします。

○学校経営の5つの重点5
家庭・地域との連携（保護者、地域の願いと自己実現）について

- a判定 ①学校の教育方針や教育内容について理解している。
②学校は子どもや保護者の相談事によく対応している。
③学校日より、学年日より等の配布物やホームページには、よく目を通している。

保護者			
A	B	C	D
18%	66%	14%	1%
30%	63%	6%	1%
21%	61%	17%	2%

家庭・地域との連携は、さまざまな行事、育友会の集まりなど機会を捉えて、教育方針・内容を訴えてきた。また、相談に対しても、丁寧な対応を心がけてきた。メールリストの継続やホームページで生徒の様子を画像や動画でお知らせする機会を増やしたので「配布物やホームページによく目を通している」の数値も高い。

後期は、相談に対しては、情報の迅速な共有、適切な対応を継続します。配布物やホームページに関しては、配布時の学級での指導、テトルでの配布物のメール配信などを活用し、お知らせしていきます。また、ホームページで生徒の様子を今後もタイムリーにお知らせしていきます。

○学校関係者評価委員、学校評議員より

- ・部活動が全員入部制ではなく、未加入者の数やスポーツクラブでの活動状況などはどうなっているか
→学校の部活動に未加入の生徒は30人程度である。地域クラブや習い事などを行っている生徒も多く、まったく活動していない生徒は10名に満たないくらいである。
- ・自分のよいところを知っているの項目で評価の低いクラスもあるので、学校・家庭も含めて何か原因が考えられるのか。
→原因があるかも含めて、懇談などで保護者の方々とも話す機会を持って、改善に努めていきたい。
- ・通学路においての通行の方法がよくわからないところがある。また横断歩道があったらよいと思われる場所がある。
→学校の方では、警察とも相談しながら、危険のないように通学路を決めているが、それがうまく生徒に伝わっていない部分があるので、これからも生徒に伝えていく。横断歩道については地域の方とも連携して、設置を要望していきたい。
- ・生徒から生徒への緊急連絡網などは現在は使われてはいないのか？
→メールリストを使って、必要な連絡や緊急の連絡を行っている。ほぼすべての家庭に連絡ができる。また、2学期からテトルという連絡ツールを使用し、欠席連絡や配布物のファイル送信もできるようになる。
- ・県立学校では自動採点ソフトを使用し、働き方改革の時間削減に役立っているときく。美川中学校でも使用しているのか。
→市内でも試験的に使用している学校がある。成果が上がるようであれば、導入されていく可能性はある。
- ・どの項目もよい結果が見られる。特に挨拶がよく、学校にはいつかすぐに挨拶してくれる生徒がいた。また、すれ違ったときにむこうから挨拶してくれるなど、地域住民としてうれしい。

学校評価の結果と学校関係者評価委員会の皆様や保護者のご意見をもとに、課題となっている項目を再検証し、学校生活が校生活がさらに向上していくように努めていきます。